

教員養成に対する理念

【大学としての教員養成に対する理念】

本学は、昭和46年、地域の教育界、経済界、また社会団体等の強い要請を受けて鳥取女子短大として開学した。その後、時代の変化と地域の要望に対応して、平成13年4月には、男女共学とし、大学名を現在の鳥取短期大学と改称した。「地域の要請に応える」、「地域と共に」が本学の基本の姿勢である。従って 本学の建学の精神は「地域の発展に貢献する人材を育成すること」であり、主に鳥取県と島根県を中心とする山陰圏域で期待される人材の育成を行うことが、本学の使命である。

教職課程については、開学時、幼児教育科（現在の幼児教育保育学科）が幼稚園教諭二種免許状、開学当時より栄養士養成を行なってきた生活学科食物栄養専攻が、平成17年度より栄養教諭二種免許状の認定課程として指定された。教職課程設置の趣旨も、当然地域の要請に応えることである。当圏域における教職課程を有する数少ない短大としての責務を果たすべく、教職課程を含む専門教育課程における高いレベルの教育内容の保持のみならず、常に地域の教育現場と連携を密にし、地域で必要とされる有為な教員養成に努めている。

さらに、本学では「めざす学生像」として「人の意見を聞くと共に自分の意見がしっかり言える」、「他の人をおもいやる」や「主体的に行動する」ことを掲げて学生指導に取り組んでおり、教員養成においては専門知識・技術と人間性を兼ね備え、将来にわたり求められる資質を自ら積極的に伸ばす努力のできる人材育成に取り組んでいる。

【生活学科食物栄養専攻（栄教二種免）としての教員養成に対する理念】

生活学科食物栄養専攻では、本学の建学の精神に基づき、食と健康に関する専門知識、確かな技能と研究的態度を備え、食の分野から地域社会で人々の健康づくりに貢献できる栄養士を養成することを教育目的としている。栄養教諭の養成は、この栄養士養成を基盤としている。児童・生徒が将来にわたって健全な食生活を実践するための「食に関する指導」を行い、さらに学校給食の運営・管理を一体的に担うことができる能力、また一人ひとりを大切にする個別的な指導を行うことや、教科内容等を深める研究能力を兼ね備えた栄養教諭の養成を行っている。

【幼児教育保育学科（幼二種免）としての教員養成に対する理念】

幼児教育保育学科は、「教育」「福祉」の研究と教育を行い、地域社会や家庭において、人と人とのかかわりを支援できる人材を育成することを教育目的とし、本学の建学の精神である「地域に貢献する人材の育成」を具体化するため、幼稚園教諭免許状及び保育士資格を取得する課程を置き、「保育者」養成を行っている。

本学科の教員（幼稚園教諭）養成と保育士養成の理念は共通しており、保育・幼児教育にかかわる「人を大切にするところ」「豊かな専門的能力」「個性を生かした実践力・応用力」を兼ね備えることをめざしている。さらには、本学の学生指導の方針を学科レベルで具現化するため、「保育者＝子ども・保護者の模範」を意識し、得意分野を伸ばし、実践力を兼ね備えた保育者をめざした教員養成を行っている。